

# 都市機能の整った快適なまち推進プラン

## 【事業進行管理表】



事業名		市営住宅整備事業	
【総合計画の体系】	4-4	2	第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち 4 都市機能の整った快適なまち

所管名	1560	都市整備課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】	754,054 千円
-----	------	-------	--	--------------------	------------

事業概要	目的	健康で文化的な生活を営むことができる市営住宅を計画的に整備する。 (老朽化した市営住宅を統廃合し、池子住宅に続き、桜山住宅を建替える。)
	対象	市営住宅の利用者及びこれから市営住宅を必要とする市民
	手段	市営住宅管理計画に基づき、市営住宅の計画的な整備・配置を実施するとともに、既存市営住宅のバリアフリー化を推進する。

年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○既存市営住宅のバリアフリー化		→→→→→	→→→→→

目標【2022(令和4)年度】		現状【2013年度末】
市営住宅のバリアフリー化率が100パーセントになっている。		59パーセント

<2021年度 進捗状況>	事業費(2021(令和3)年度実績額)	0 円
---------------	---------------------	-----

実施結果	2019年度に策定した市営住宅長寿命化計画において、住宅需要推計により2024年度(令和6年)度には、小坪滝ヶ谷第3住宅は不要となる結果を得た。バリアフリー化されていない小坪滝ヶ谷第3住宅(沼間南台住宅、池子住宅や桜山住宅はバリアフリー化済)については、入居者を他の市営住宅に移転してもらい、用途廃止する方向で進めている。
------	---

反省点・問題点	工夫している点	小坪滝ヶ谷第3住宅の入居者には国費を活用した移転費助成を支払い、他の市営住宅に移転してもらい、早期の用途廃止を推進している。
---------	---------	--

### <目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
バリアフリー化率86.8%(全114戸のうち99戸)。 ただし、バリアフリー化されていない小坪滝ヶ谷第3住宅については、2024年度以降、市営住宅長寿命化計画により不要と整理するため、バリアフリー化率は100%となる。	ア ①予定どおりに進捗		(a)順調である

### <審議会・懇話会等の意見>

事業目標は達成しており、評価としては妥当であるとする。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(a) 順調である

# 都市機能の整った快適なまち推進プラン

## 【事業進行管理表】



事業名		JR東逗子駅前用地活用事業		
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-4 1		4 都市機能の整った快適なまち		
所管名	1110	企画課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 15,300千円
事業概要	目的	JR東逗子駅前の旧国鉄清算事業団用地を有効活用することで、駅周辺の快適性・利便性を向上させるとともに、活性化を図る。		
	対象	市、市民、事業者		
	手段	市民や事業者、地権者との合意形成を図り、用地活用計画を策定する。また、民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、施設整備を行う。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○民間資金等の活用の検討 ○事業者選定	○施設整備に係る実 施設計	○施設整備工事	→→→→→
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】	
(仮称)JR東逗子駅前用地活用計画のもと、施設整備を行う。			計画の策定に着手していない。	

<2021年度 進捗状況> 事業費(2021(令和3)年度実績額) 0円

**実施結果**  
 ・事業予定地南側民有地の地権者と、交換により互いに使いやすい土地の形状にして各々が活用する方向で交渉を進めたが、交換後の土地の位置等の条件が折り合わず、協議不調(2021.12)となった。  
 ・このため、地権者協議と並行して検討を行ってきた再配置・集約を想定する施設や補助金の活用を想定したスケジュール等をベースに、土地開発公社所有地のみで改めて事業計画を進めることとした。

**反省点・問題点** **工夫している点**  
 事業財源確保のため、活用の可能性のある国の補助金(都市再生整備計画関連事業)について、情報収集及び検討を行った。

### <目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
2018年度に基本構想(案)を作成したが、その後事業予定地南側の民有地と土地交換等の交渉に時間を要したこともあり、基本構想(用地活用計画)の策定に至っていない。	イ 予定より遅れている		(c) 順調であるとみなせない

### <審議会・懇話会等の意見>

進行管理表の年度別計画に基づく目標であれば順調ではないが、そのことを踏まえ、次の新たな目標を掲げて事業を進めている点では評価できる。 進行管理表の目標に対する評価としては妥当であるとする。	審議会等が妥当と考える評価区分  (c) 順調であるとみなせない
---	--